



出津集落

禁教期に外海地域の潜伏キリシタンの多くが五島列島などへ移住したため、潜伏キリシタンの信仰のかたち各地へと広がった

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を訪ねて

密かな信仰の証

⑤ 外海の出津集落

(長崎市)

信仰心が今も息づく潜伏キリシタンの里

禁教期にキリシタンへの厳しい取り締まりが行われる中、外海の出津集落の潜伏キリシタンは、小規模な信仰組織で連携し、オラショや教会暦などを密かに伝承していました。観音像を聖母マリアに見立てた「マリア観音」や「イナッショ様」などを密かに拝み、先祖から受け継いだ聖画やロザリオ、メダイなどは箱に入れて隠し持っていたそうです。潜伏キリシタンを支えたのは、「7代過ぎたら黒船に乗ったパードレ(神父)がやってくる」という先祖からの言い伝えでした。

1865年、プティジャン神父が密かに出津を訪れ、潜伏キリシタンに面会すると、潜伏キリシタンの一部がカトリックに復帰。その数は次第に増えていきました。また、1879年にド・ロ神父が外海に赴任すると、出津集落を望む高台に出津教会堂が建てられました。

出津集落では今も禁教を乗り越えた信仰が固く受け継がれています。

問合せ 県の世界遺産登録推進課 ☎095-894-3171

長崎から世界遺産を 検索



イナッショ様

(長崎市外海歴史民俗資料館所蔵)

出津の潜伏キリシタンが伝承した像。イエズス会の創設者で聖人のイグナチオ・ロヨラに見立てた仙人像を「イナッショ様」として信仰したものの。像を収めた木箱にはロザリオの珠も納められていた

県では、皆さんからの寄附をもとに構成資産の修復や耐震対策などの事業を行います。ご協力をよろしくお願いいたします。

長崎県 構成資産へ寄附 検索